



関西大学 社会安全学部・
大学院社会安全研究科
教授 博士(法学)
日本経営倫理学会 常任理事
経営倫理実践研究センター
上席研究員
高野 一彦氏

1. NGKグループのESG経営の特長と昨年からの進化

NGKグループは、わが国の経済を支える重要な基幹産業であり、社会から事業継続を強く求められていることは論を俟たない。昨年の第三者意見では、事業継続の基盤となるコーポレート・ガバナンス、及びコンプライアンス・リスクマネジメント体制について、同社グループは大変素晴らしい制度設計と運用を行っていることを紹介した。

本年度版のレポートを拝読し、昨年よりさらに進化した点は以下の4点ではないかと思われる。

第一は、新たな企業理念の定立である。同社は、2019年に創立100周年を迎え、新しい理念体系を策定した。新たな「NGKグループ理念」は、創立時の価値観を踏襲しつつ、理解しやすい言葉に改め、世界20カ国で事業を展開する仲間たちが共有できるように工夫されている。長く続く企業は、企業理念・価値観を経営者と従業員が共有しているという特長があるとする研究成果がある。大島社長のトップメッセージでは、「グループ全体で価値観を共有する」ことの大切さを説いておられるが、社会から事業継続を強く求められている同社グループにとって、これは重要なことであると思う。

第二は、企業行動指針の改定である。「NGKグループ企業行動指針」は、新たな企業理念の定立に先駆けて、2019年1月に改定が行われた。新たな指針は、同社グループのみならず、サプライチェーンにも人権尊重や法令遵守を求めている。これはグローバルな事業展開にあわせて、児童労働や腐敗防止などに関する国際規範をサプライチェーン全体で遵守する姿勢を示していると思われる。

第三は、ESG会議の新設である。社長を議長として2019年4月に新設された同会議は、SDGs(持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・ガバナンス)について、持続可能な世界の実現に向けてグループ全体で取り組む強い意志のあらわれであると考えられる。

第四は、品質コンプライアンスである。2018年1月に発生した「受渡検査不整合問題」を契機として始まった品質コンプライアンスの向上の取り組みが、全社的な活動に発展している様子が詳細に示されている。

このように、昨年に比べてさらに進化している様子を、「NGK Report 2019」からうかがい知ることができて大変嬉しく思う。

2. さらなる発展への期待

このように、NGKグループは、高いレベルのESG経営を行っているが、さらに昇華するために、あえて以下の2点を挙げたい。

第一は、長期ビジョンの提示である。わが国におけるESG投資の投資残高は、2014年以降急激に伸びており、ESG評価を高めることで長期的な企業価値向上に資することとなる。特にSDGsの取り組みは、価値創造ストーリーの中に位置づけて、10年・20年先のビジョンを示すとより良いのではないかとと思う。

第二は、防災対策である。前述のとおり、同社グループのリスクマネジメント体制は充実しているが、自然災害対策の記述を充実させることで、さらにレジリエンシーをアピールできるのではないだろうか。大規模地震や風水害、それに起因する大規模停電などの広域複合災害の発災を前提とした事業継続計画(BCP)と、実効性を高めるための訓練などの記載があると、より良いのではないかとと思う。

長期ビジョンの提示やレジリエンシーのアピールにより、さらに企業価値が向上し、持続的に発展されることを期待している。